

夏と春の英語研修を説明 マギル大のケビン氏が学部を訪問

茨城大人文学部のカナダの協定校であるマギル大学・生涯教育学部のケビン・スタンレー氏と田中氏が 11 日午後に入文学部を訪れ、春と夏の短期語学研修についての説明会を開いた。説明



明会には、来年 2 月の研修に参加する学生を中心に約 20 人が参加し、熱心にメモを取っていた。

ケビン氏の訪問は、一昨年に次いで 2 回目。最近マギル大入りした田中氏は初めて。

冒頭、ケビン氏は、カナダやモン



トリアールの地理や気候などについて説明、特に、冬の厳寒期は、マイナス 20 度くらいに冷え込むことが珍しくなく、場所によっては、マイナス 45 度まで冷え込むところがあるとも指摘した。

日本の冬との違いは、カナダの冬が乾燥している点、頻繁に水分を取る必要があるとの助言があった。もっとも、カナダの建物や住宅は暖房が利いており、モントリオールは、地下街や地下鉄が発達しているので快適な生活を送れるでしょう、心配ご無用、と強調していた。



講義は、カナダの文化や発音矯正などの講義のほか、短期語学研修に

参加した学生が挑戦する地元小学校での「Japan Day」



と銘打った出前授業や NHK に当たる公共放送 CBC での研修などのメニューを紹介。研修に参加した茨大生の世話役となる、マギル大の学生のモニターら

との講義終了後の市内見学などの行事も予定している、との説明があった。

3 週間の日程で 8 月 1 日からスタートする夏のプログラムの春との違いについては、滞在形態が春は、ホームステイなのに対して夏は、大学の寮からの通学。モニターさんも寮に泊まり込むため、「濃厚な交流が期待できる」と胸を張っていた。夏のプログラムの費用は、寮費込みで 3700 ドル程度。



「フランス語圏のモントリオールは英語通じるのか」などの学生からの質問に、ケビン氏は、「レストランのメニュー表などは、フランス語が多いが、英語で質問すれば、英語で答えてくれるはず」と答えていた。最近、語学研修の担当となった加わった田中さんは、広島県出身で、カナダ在住 20 年。茨大生を含めた邦人学生の語学研修組の危機管理などで活躍していただけることになっている。

(終)